

2016年6月5日(日)朝10:10～

聖霊降臨節第4、オリーブ会等

6月第1聖餐総員共同主日礼拝式説教

日本アライアンス庄原基督教会

説教題：**わたしに忠実であれ、  
生命<いのち>の冠を与える**

聖書:ヨハネの黙示録 2章8～11節

<口語訳>

新約聖書387頁

ヨハネの黙示録 2章8～11節

<新共同訳>

新約聖書453～454頁

ヨハネの黙示録 2章8～11節

<新改訳第3版>

新約聖書477～478頁

ヨハネの黙示 2章8～11節<塚本訳>

新約聖書780～781頁

主題:主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
  - ◇ヨハネ黙示録1章1～8節は、序言ですが、前半の1～3節は、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが、4～8節は、序言の後半、4～5節前半が「祈り、願い」、5節後半～6節が、「神への讚美」、7～8節が、ヨハネの宣言と、9～20節は、神の幻顕現とヨハネへの命令で、2章1～7節は、エペソ教会へ手紙です。
  - ◇ヨハネの黙示録2章8～11節は、スミルナの教会へ手紙です。
- ⇒スミルナ教会は、エペソ教会の北約56kmにある良港をもつ皇帝礼拝のあるギリシャ都市であり、キリスト者は多くの迫害を受けました。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第2章8～11節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録2章8～11節；ヨハネは、スミルナの教会に多くの艱難を乗り越えれるとの神の約束を示しつつ、神の御子イエス・キリスト様へ忠実であることを求め、生命の冠が用意されているとの保証を書きました。

◇8～11節；塚本訳◆スミルナ教会への手紙

「8 また、スミルナ教会の御使いに(斯く手紙を)書け、最初の者、最後の者、(一度)死んで(今)また活きた者(である人の子)が斯く言うと——

9 私はお前(が私の名のために受けた、また受けつつある数々の)患難と、(またお前の)貧しさとを知っている——しかし(貧しいのはただ外見だけであって、神の前では)お前は(一番)富んでいる(のである。)——また(自分で)自分をユダヤ人であると称え(て誇り)ながら、(その実、決して真の)ユダヤ人でなく、むしろサタンの会堂に属する者

達からの罵詈を(お前が受けていることを、)  
私は知っている。(お前が今日までよくこれ  
に耐えて来たことを私は褒める。)

10 お前はまた苦しむであろうが、(決して)  
それを恐れるな。視よ、悪魔はお前達の中  
から(幾人かを)牢屋に投げ込もうとして  
いる。それはお前達が試練を受けるため  
である。お前達は十日の間患難を受ける  
であろう。(しかしただ少しの間の我慢  
である。)お前は死ぬるまで私に忠実であれ。  
そうすればお前に生命の冠を与える  
であろう。

11 耳を有っている者は、御霊が(全)教会に  
言い給うことの何であるかを聴け。勝利者  
は決して第二の死、(永遠の死)に害なわれ  
ないであろう」と、ヨハネは主からの手紙を  
書き、天使宛に送りました。

◇8～8節a;「最初の者、最後の者、(一度)死んで(今)また活きた者(である人の子)、活きた者(である人の子)」が、スミルナの教会は、「お前(が私の名のために受けた、また受けつつある数々)の患難と、(またお前の)貧しさ

とを知っている」、「(貧しいのはただ外見だけであって、神の前では)お前は(一番)富んでいる(のである。)」と、ヨハネ書いています。

⇒8節;スミルナの教会は、ヨハネ黙示録1章17~18節の「最初の者、最後の者、(一度)死んで(今)また活きた者(である人の子)、活きた者(である人の子)」からの語りかけを受け、「**受けた数々の患難と貧しさ**」を知っていると**いう神の御子イエス・キリスト様の励ましのことば**を知らされます。

⇒この「**貧しさ**」は、経済的なものもありましたが、次の「**富んでいる**」が、金持ちであるよりは、**霊的豊かさ**であると理解されますように、**神の前の貧しさ、霊的謙虚さ**を表しています。

⇒ヨハネが、ヨハネ黙示録を書いたのが、90年代として、155年2月23日、**スミルナの教会の監督、ポリュカルポス**が、火刑による殉教を遂げた「**患難の日**」で、**ヨハネの予告の通りの試練がスミルナの教会に及んだ**のです。多くの**スミルナの教会の人々**が殉教します。

⇒「**富んでいる豊かさ**」は、殉教の中でも、**御子イエス・キリスト様への信仰堅持**のことです。

⇒8節b～10節；スミルナの教会は、先の教会の監督、ポリュカルポス殉教へのユダヤ人たちの罵りを「悪魔はお前達の中から(幾人かを)牢屋に投げ込もうとしている。それはお前達が試練を受けるためである。お前達は十日の間患難を受ける」との預言の成就のように理解されています。

⇒すべてのユダヤ人を「悪魔」としているのではなく、「(しかしただ少しの間の我慢である。)お前は死ぬるまで私に忠実であれ。そうすればお前に生命の冠を与える」との神の保証のことばがつづけて語られていますように、神には、神への服従か、神への不服従かの2つの選択の道しかないことを告げます。

⇒スミルナの教会の監督、ポリュカルポスは、「過去、86年間、私はキリストに仕えてきた。キリストは一度かりとも私に不真実であることはなかった。それなのにどうして、私は私を救ってくださった主を今になって、冒瀆することができようか」と、有名なことばをローマ総督に語り、御子イエス・キリスト様に徹底して従ったのです。

- ⇒11節;スミルナの教会も、「勝利者」の「決して第二の死、(永遠の死)に害なわれない」との保証のことばを与えられています。
- ⇒「第二の死、(永遠の死)」は、「第一の死」が肉体の死であるのに対して、**霊的死、最後の滅び**を指していますが、「第二の死、(永遠の死)」は、「第一の死」が来る前に、すでに始まっているのです。それは、孤独や神不信の生活の中にすでにあることなのです。
- ⇒この「**第二の死、(永遠の死)**」を御子イエス・キリスト様、ヨハネ、スミルナの教会は知っているのですが、スミルナの教会の殉教者を罵る「**サタンの会堂に属する者たち**」は知らないし、知らされていないのです。
- ⇒私たちは、「**勝利者**」にこれからなるのではなく、すでに**神信仰の恵み**によって、「**勝利者**」されているのですから、「**決して第二の死、(永遠の死)に害なわれない**」者とされ、「**勝利者**」のために用意されている「**生命の冠を与え**」られるのです。
- ⇒スミルナの教会がめざす「**生命の冠**」は、今日の教会のゴールでもあるのです。

## 結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
  - ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
  - ◇ヨハネ黙示録1章1～8節は、序言ですが、前半の1～3節は、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を持って生きるキリスト者への励ましのことばと黙示の神の御子イエス・キリスト様の愛の思いが、4～8節は、序言の後半、4～5節前半が「祈り、願い」、5節後半～6節が、「神への讚美」、7～8節が、ヨハネの宣言と、9～20節は、神の幻顕現とヨハネへの命令で、2章1～7節は、エペソ教会へ手紙です。
  - ◇ヨハネの黙示録2章8～11節は、スミルナの教会へ手紙です。
- ⇒「さばき」は、神の専権事項、恵みも、神の専権事項、「神礼拝σέβομαι」に全力を注ぎたい。



- ⇒「**祈り、願い、讚美、再宣言**」と「**神の愛と恵み**」は、**神のしもべの使命**です。
- ⇒ヨハネに**黙示**されたことは、「**神礼拝をする σέβομαι**」ことに、「**(主にある)患難、王国(における幸福)、イエス(来臨)の待望**」をもって戦う「**ヨハネの兄弟**」とされたことを**光栄に思う神の教会の人々**によって**継承される**のです。
- ⇒**スミルナの教会の人々**は、**スミルナの都市国家**が、**皇帝礼拝に積極的な体制**であり、**人間哲学優先のギリシャ属国国家**でもありましたので、「**御子イエス・キリスト様**」を告白する者にとっては、「**患難**」を**回避できない**ことを**御子イエス・キリスト様**も、「**知っている**」と**仰せになった**のです。
- ⇒「**十日の間患難を受ける**」(10)とのことばは、人間が**患難**に耐える**限界を示すことば**と理解されていますが、**御子イエス・キリスト様**は**患難回避**ではなく、**神信仰の徹底**を求め、**御子イエス・キリスト様が殉教の死の乗越え、復活された道を進む**ように祈っておられます。
- ⇒**スミルナの教会への非難のことば**がないのは、**患難への心の貧しさ**を主が知られるゆえ!